

**野生動物管理の3つの柱：
捕獲の担い手育成，野生動物管理専門家育成，利活用推進の現状と課題**

宇野裕之（東京農工大／野生動物管理教育研究センター）・

梶 光一（兵庫県森林動物研究センター）

1. 要旨

日本では人口減少と高齢化が進行する一方で、ニホンジカ（以下「シカ」）・イノシシなどの大型獣の分布拡大と生息数の増加が続いており、農林業被害、生態系被害、生活被害など野生動物とヒトとの軋轢が急増している。この問題に対処するため、国は今年度（R5年度）に終期を迎える10年間でシカ・イノシシの個体数の半減政策を推進してきたが、目標達成がかなわずに当面5年間延長（R10年度まで）する方針を決めた。しかし、狩猟者に頼る個体数管理は熟練ハンターの高齢化もあり限界に近い。持続的に野生動物を管理するためには、捕獲の担い手育成、野生動物管理専門家育成、利活用推進の3つの柱を建て、統合的に進める野生動物管理システムの構築が不可欠である。捕獲の担い手育成については、環境省によるフォーラム、エゾシカ協会によるシカ捕獲認証（DCC）制度に基づく狩猟者教育プログラムなどが実施されている。野生動物管理専門家育成については、学会会議での審議があり、その後、省庁・大学連携による教育プログラム検討ワーキングによるコアカリキュラム作成と試行が行われた。利活用については農林水産省が中心となり、ジビエ利用拡大のための事業を行っている。しかし、これらの活動は個別に進められており、いずれも緒に就いたところである。本テーマセッションでは、これらの分野の造詣の深い演者による報告をもとに、3本柱の取り組みの現状と課題についての共通認識を得て、持続的な野生動物管理のあり方について検討したい。なお、本セッションは東京農工大学野生動物管理教育研究センターの主催事業として実施する。

2. 講演者と講演タイトル

- ・鈴木正嗣（岐阜大学）
「捕獲の担い手育成」
- ・宇野裕之（東京農工大学）
「野生動物管理専門家育成」
- ・石崎英治（(株)クイージ）
「利活用推進」

コメンテーター：

宇賀神知則（環境省／鳥獣保護管理室）

阿部尚人（農林水産省／鳥獣対策室）